

た ち ば な 新 聞

発行所 宝清寺
〒197-0821
東京都あきる野市小川01
042-558-2663



宝清寺の年中行事	
二月節分	厄除け・星祭
三月彼岸中日	彼岸塔婆供養
四月八日	花まつり(灌仏会)
四月八日	オリエンテンプリング
七月十七日	お盆塔婆供養
七月十七日	施餓鬼法要
九月彼岸中日	彼岸塔婆供養
十月十二日	お盆式法要
十二月初旬	お盆金締札

明けまして
おめでとう
ござります



素晴らしい年でありますよう祈念しております

あらたまの年を迎えて、公には鎮護国家・天下泰平を祈念し、私的には家内安全を願うところですが、昨年末には、詐欺の主犯格の四人が逮捕される等を初め、様々な事件から、人間の資質の低下が着実に進んでいるように思われます。人間として本来持っているはずの「やさしさ、思いやり、信頼」といった心はどんどん失われているのではないのでしょうか。

「それ信心と申すは別にこれなく候、妻の夫をおしむ如く、夫の妻に命を捨てるが如く、親の子を捨てざるが如く、子の母を離れざるが如くに、法華経釈迦多宝十方の諸仏菩薩諸天善神等に信を入れ奉りて、南無妙法蓮華経と唱へ奉るを信心とは申し候也」とは、日蓮聖人が妙一尼御前に送った御返事です。

住職ひと口法話 第八十三回

いざという時に困らないために！

時代の流れ、家族構成の変化により「終活」の意識が高まっていることが実感として感じられます。親亡き後の「菩提寺」や「お墓」については、いざという時に慌てないように、早めの準備や心構えが必要です。第一生命経済研究所主任研究員を経て、一般社団法人シニア生活文化研究所代表理事の小谷みどりさんは「今は、『直葬』といって『お葬式をしない』『葬式はいらない』と、葬儀式に意義を感じないと言う人がいる」と指摘しています。日蓮宗では『いのちに合掌』を提唱しています。私たちは連綿と続く生の流れの中で、両親から生を受けたものです。我々の「命」はその奇跡の連綿の賜だと思ふと同時に、故人となられたご両親やご先祖には「我々を育ててくれた生き

世の中は正に不信に満ちていて、不信の時代といわれて久しいですが、信じられない出来事が多発している社会状況はともやりにきれないし、寂しい限りであります。
この日蓮聖人のお言葉のように、今年は「信じる心」で過ごしたいと思います。

管理寺務所からのお願い

他宗で橘墓苑の墓地や睡蓮堂を使用されている方がありますが、昨年、それらの墓所に埋葬されている年回忌に当たる方のご供養を、管理寺務所に連絡せず、他宗の僧侶のお勤めで、墓前で供養されているのを複数見かけました。
橘墓苑の墓地や睡蓮堂、蓮華堂、樹木葬は宝清寺管理寺務所が一括管理しています。いずれの場合でも、宝清寺の男性寺務員が墓前での世話をするようにしています。

今後はどのようなご供養でも、実施される場合は、日時、場所、何宗のお寺の僧侶が来られるのか等、管理寺務所にご連絡頂き、打ち合わせを済ませて実施されるようお願い致します。

「縁起でもない」と話題にすることを避け、お寺のことは年寄りに任せる傾向にあります。できれば、もしもの時を想定して、宝清寺にお墓があることや葬儀の規模や式場など、生前にご家族で話し合っておくことが良いでしょう。最近、葬儀社の中には、菩提寺（先祖代々のお墓があり法要を営むお寺）があるにも関わらず、葬儀社の紹介で他のお寺の僧侶がお勤めをすることがあるようです。

菩提寺の許可を得ず他寺の僧侶がお勤めをした場合、埋葬の際トラブルになることがあります。もしもの時は必ずお寺にご連絡下さい。例えば、直ぐ出来ることは、自宅の分かりやすい場所や携帯電話に宝清寺の電話番号を掲示、登録しておくと思ひます。

宝清寺のお墓の状況

「世代交代等でお墓の承継に
お困りの方へ朗報」

従来のお墓

平成二年九月二十三日、師父石井前恭（日延）上人が遷化、住職を承継した平成三年四月より、山林を造成し、新しく墓所を整備して、橘墓苑を開設しました。当時、お墓が不足し墓地の確保が難しいとの風潮から、墓所を申し込まれる方が多く、家族だけでは対応しきれなくなり、管理寺務所を設置致しました。現在も管理寺務所の寺務員が皆様のご供養のお手伝いをさせて頂いております。

永代供養の納骨堂

昨今の風潮として、世代の交代や社会の状況から、従来のお墓の維持が難しいと、永代供養の相談を受けるようになり、平成二十年に納骨堂として「睡蓮堂」を新設しましたが、不足の状況から新たに本堂内に、「蓮華堂」を新設しました。

以来、各寺院や霊園でも納骨堂の募集が多く見られるようになりました。

樹木葬のお墓

お檀家の方々から、宝清寺では樹木葬のお墓を作らないのかとの問い合わせがあり、令和三年に第一区画の樹木葬のお墓を新設したところ、申込者が多くたちまち完売に近づいたため、将来設置を予定していた、第二・第三区画を建墓し現在に至っています。

前記のとおり、宝清寺には、従来のお墓・永代供養の納骨堂・樹木葬のお墓があり、それぞれお墓の形状は異なりますが、いずれの墓所を使用されていても、同じように本堂やたちばな会館を使用しご供養をさせて頂いております。

宝清寺では、近年におけるお墓の承継問題にお困りの方への対応策として、檀信徒の皆様、現在建立されご先祖をお祀りしているお墓を「永代供養墓」として残し使用する方法を提案しております。また、お墓を残しておきたくないという方もいらっしゃると思います。その方には、墓地を返還して、樹木葬の墓の購入の相談も受けております。

「永代供養墓」「樹木葬」に切り替えた場合、それ以後の管理料の納入の必要はなく今までどおり墓参をしていただき、本堂やたちばな会館でのご供養も可能です。高齢になり、墓参が困難な場合や、承継問題でお悩みの方は、ご遠慮なく管理寺務所までご相談下さい。尚、来寺される場合は事前に、日時のご予約をお願い致します。

法華経と私たち 第二十七回

観世音菩薩普門品

第二十五 ①

そのとき、無尽意菩薩は座より立ち、右の肩を露にして合掌し、釈尊に向かつて言った。

「世尊よ、観世音菩薩はどうして観世音と呼ばれているのですか」

釈尊は無尽意菩薩に答えた。

「無尽意よ、もし幾千万億の衆生が、様々苦しみを悩んでいたとき、この観世音菩薩の名を心に称えれば、菩薩は直ちにその声を聞き、苦しみを悩みから解放されるであろう。もしこの観世音菩薩の名を心のなかで称えれば、火の中にあっても焼けることはないであろう。もし河に流されても、その名を称えれば、浅瀬が見つかるだろう。もし幾千万億の人びとが宝を求めて海に出、嵐にあつて鬼ヶ島に流されたとしても、一人でも観世音菩薩の名を称えるものがあれば、難を免れるだろう。このゆえに観世音というのである。もし人が処刑されようとしたとき、観世音菩薩

の名を称えれば、処刑人の刀杖は折れるだろう。もし三千世界に、悪鬼らがはびこり、人を悩ますことがあつても、観世音菩薩の名を称えれば、害を加えられることはないだろう。また罪があるにせよないにせよ、足かせや鎖でつながれ閉じ込められているとき、観世音菩薩の名を称えれば、解かれて脱出できるだろう。もし三千世界に悪魔や盗賊がいて、商人や隊商を率いて悪路を通るとき、一人がこう言うとしよう。『みなもの、恐れることはない。観世音菩薩の名を称えよう。この菩薩はわれらを守ってくれる』こうしてみな声を上げて『南無観世音菩薩』と称えれば、難を免れるであろう。無尽意よ、観世音菩薩の威力はこのようである。もし愛欲の強いものが、この菩薩を念ずれば、欲の心はなくなるだろう。もし激しい怒りをもつものが、観世音菩薩を念ずれば、怒りは離れるだろう。もし愚痴の多いものが、観世音菩薩を念ずれば愚痴は離

れるだろう。無尽意よ、観世音菩薩はこのように大神力があり、ご利益が多いのである。衆生は常に時と処に応じて念ずるべきである。もし男の子が欲しいなら、観世音菩薩を礼拝すれば、賢い男の子が生まれるだろう。もし女の子が欲しいなら、可愛い女子が生まれるだろう。無尽意よ、観世音菩薩はこのような力をもっているのだ、衆生が敬い礼拝すれば、そのご利益は必ずあるのである。無尽意よ、もし人あつて六十二のガンジス川に等しい数の菩薩たちを礼拝し、各々に食事、衣服、臥具、医薬を供養すれば、この人の功德は大変多いだろう。お前はどのように思わないか」

無尽意は答える。

「大変多いと思います」

釈尊は言う。

「しかし、また人あつて観世音菩薩の名を思い、一時でも礼拝し供養すれば、この人の功德は少しも劣ることなく、二人の功德は等しいのである。どちらも無量のご利益を得るだろう」

無尽意は釈尊に問うた。

「世尊よ、観世音菩薩はどうしてこの娑婆世界に遊行しているのですか。どのように衆生に法を説いているのですか。その方便の力はどのようなものですか」

※以下次号に掲載します。

お檀家の画家

望月一雄氏

千手観音油絵寄贈



お檀家の望月進次様が九月に逝去され、兄の望月一雄様が進次様のご供養の為、左写真の望月一雄様が描かれた千手観音の油絵を寄贈されました

た。望月一雄様は、立川市役所に勤めながら二十一歳で水彩画を始め、二十三歳から油絵に挑戦し始め「旺玄展」初入選、翌年には「二科展」に入選、一九八三年には、現代洋画精鋭選抜展で金賞を受賞された。寄贈された油絵は、令和六年五月三日から二十六日の期間、昭島市中神町のフランスベッド東京工場内の「家具博物館」で開催された国際博物館の五月十八日の記念事業として、同館が昭島市の人物紹介展と銘打って企画し、望月一雄氏の油絵「平和への祈り」「東日本大震災」「いじめ」「救い」などをテーマにした三号から一二〇号の大作まで見ごたえのある作品四十点が展示されたうちの一点で、千手観音像を描いた大作「無畏」と題した最新作です。

望月一雄様から描ききっかけについて、『無畏（十一面千手千眼観世音菩薩立像）について』と題する文章を預かりましたので、以下に要約して掲載致します。

「無畏（むい）」とは、仏や菩薩が人々の恐れや不安を取り除いて救う事を指します。描ききっかけは二〇二一年十一月に三十三間堂安置の十一面千手千眼観世

音菩薩立像を見てきた友人から頂いた『千体仏国宝指定記念（無畏）』という豪華なガイドブックを見たことから始まりました。翌年、ロシアがウクライナへの軍事侵攻を開始（二月二十四日）し、その日から残酷で悲惨な光景を毎日映像で見る心痛のなか、何か絵描きとして出来ないかと模索しておりました。

二〇二三年三月に、ガイドブックを頂いた友人をはじめ身近な人達が病気になった事を知り、市内の神社やお寺に友人達の病氣平癒とウクライナの平和を機会あるごとに祈願していました。拝島の普明寺大日堂で大日如来像、釈迦如来像、阿彌陀如来像を、薬師堂で薬師如来像を拝んでいるうちに、仏像には目には見えない力があるのではないかと感じ、以前頂いたガイドブックをもう一度開いた。そこには千体の観世音菩薩立像のお顔が一つ一つ写し出されており、解説を読みながら亡き父と母のイメージに合ったお顔の観世音菩薩立像を探し出した。

それが、院賀作「快樂尊（けらくそん）」四八〇号尊でした。この「快樂尊」を描いてみようと思いましたが、「快樂」とは、欲望を乗り越えて、悩み、煩わしさから心が解放され気分が落ち着き、心のままに過ごせる状態を指す言葉で、『無量寿経』では、清浄な浄土で味わえる喜びで、この世ではとても味わうことが出来ないと言う意味だそうです。そこから、図書館に通い始め、十一面千手千眼観世音菩薩立像の頭上十一面のお顔を始め、多くの資料を探し続けました。

二〇二三年十二月頃から具体的な形、構図を捉える準備に入りました。一番重要な空間の捉え方には、生前、五十嵐祥晃先生に教えて頂いた「八卦」（はっけ）を使いました。「八卦」は古代中国で生まれた宇宙の万物を現す八つの自然のシンボルで、現代易占術に使われています。天・沢・火・雷・風・水・山・地の八つで、雷（らい）・風（ふう）は三十三間堂に安置されている雷神像と風神像を使わせて頂いた。地（ち）には現在の世界の国々の非民主化の現状を見て、四君子（梅・蘭・竹・菊）を置きたかった。画面の下部には神聖な泥の中から生まれるながら清らかな花を咲かせる姿「泥に染まらず」という教えから蓮の花を配し、その周りに極楽浄土に咲くとされる蓮の花の咲いた後の花托を描いてみました。

今回、仏像の世界は無限の働きとそれぞれの役割と「願い」を持つていることが分かり、私たちにメッセージを送っているのだ、それを理解するために、読み取る心の目を養いたいと思いました。

そして、最後に頭上にある十一面で、真後ろの一面にあり、誰にも見えない「暴悪大笑面」を左右の上部に描き出した。「暴悪大笑面」には「善を喜び、悪を笑う」と言う意味があるそうです。十一面千手千眼観世音菩薩立像の目には見えない無限のお力で、友人達の病氣平癒とウクライナに一刻も早く平和が戻るようにと夢中で描き続けました。鉛筆で「快樂尊」下描きの際には、キャンパスの至る所に友人の名前や病名を、また、ウクライナの国民の安寧や平和への願いを同じく鉛筆で書きました。見た人が少しでも、「無畏」を感じて頂けたら幸いです。」